



# いちはら粘菌の会

第 37 号

令和 4 年

2022 年 5 月 2 日発行



マリスタジアム 4/10 (千葉市幕張)

小3 だった彼は震災で父・祖父母を亡くし、逆境を乗り越え、やがて勇気や希望を与える若者(20才)となりました。

銀色の樹々の芽が刻々と変化し、萌える若葉が美しい季節となりました。市原市内の神社や寺院の境内には、いつの時代に、どんな人々が植えたのだろうか……? と、思いを馳せる樹々が多々あります。今年もまた、みごとに咲き誇るつつじの姿がありました。

歴史を思い、世界の国の人々が親しく、平和な暮らしができることを祈ります。

粘菌との出会いも、いよいよです。



久留米つつじ(釋蔵院境内) 4/25



4/20 の夕刊の記事にありました。まだまだ知られていない「知の巨人」。自然環境保護の先駆者は、現代に何を語るのでしょうか?

こんにちは !!

粘菌はとても小さい生き物なので、これまであまり知られていなかった存在です。粘菌のファンは小さいお子さんから高齢者まで幅広いのですが、年配者にとっては多くの方が老眼になり、近くの物がぼやけて見えるようになります。小さいお子さんはとても目が良くて、しかも背が小さいので地面の近くにいる粘菌を見つけるのがとても得意なのです。

この会は老若男女問わずに楽しめる会です。小さいお子さんも大歓迎です。

会副代表 佐藤勝夫(右) 石井一行(左)

東国吉の南方熊楠になるぞ~



## 行事予定

5月8日(日) 粘菌観察会とタケノコ掘り<東国吉地区>

10時~11時45分 粘菌交流館駐車場

6月5日(日) 粘菌観察会 <山木地区>

10時~11時30分 神社駐車場

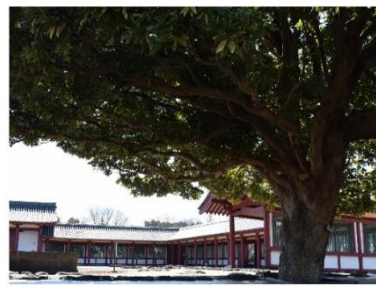
白幡神社 住所 市原市山木 243

周辺の農道、林で観察です

☆一般の方は参加費 500 円です

高校生以下は無料。小さいお子さんは保護者同伴でお願いします

上総国分尼寺跡とタブの樹



上総国分尼寺(法花寺)  
上総国分尼寺跡は市原市が古代上総国の政治・文化の中心地であったことを象徴する歴史的な文化遺産です。平成5年(1993年)、復元中門と展示館、9年に復元回廊が公開となりました。天平建築の力強い意匠は、現代の私達に貴重な古代文化があったことを伝えています。

南方熊楠は明治末期、鎮守の森伐採に反対し、自然環境保護のエコロジー(生態学)の言葉を最初に使った研究者とも言われています。粘菌標本37種90点を昭和天皇に献上したことも知られています。



タブ(宝真木)の樹皮を木から世界初の粘菌のクオーツ標本を発見しました



昭和35年(1960年)10月9日 粘菌の発見者である、9/29~10/9 昭和35年 粘菌の発見者 (昭和の発見者) 文庫 粘菌の会 2022年4月1日

交流館内に資料掲示した後、上記の新聞報道がありました。タイミングの良さにびっくりです! 白浜町といちはらがつながりました。

問い合わせ先

080-5460-5775(中村)

090-7230-4847(佐藤)

090-2476-1361(石井)

☆市原市東国吉 495(粘菌交流館)

いちはら粘菌の会